

遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する
法律に規定する第一種使用規程承認の申請に係る学識経験者の意見

1 第一種使用規程の承認の申請者、遺伝子組換え生物等の種類の名称及び第一種使用等の
内容

(1) 名称

複合病害抵抗性イネ

- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. 日本晴 ;NIA-OS001-8
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. 日本晴 ;NIA-OS002-9
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. 日本晴 ;NIA-OS003-1
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. たちすがた ;NIA-OS004-2
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. たちすがた ;NIA-OS005-3
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. たちすがた ;NIA-OS006-4
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. 日本晴 ; NIA-OS007-5
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. たちすがた ;NIA-OS008-6

(2) 第一種使用等の内容

隔離ほ場における栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為

(3) 申請者

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 理事長 井邊 時雄

2 当該申請に対する意見

1 (1)に係る申請は、平成25年6月4日付け、平成26年4月15日付け及び平成27年4月20日付けで承認された申請(以下「前回申請」という。)について、使用等の場所等の内容を一部変更するものであり、以下の点について確認及び審査を行った。

(1) 使用等の場所の追加

当該申請では使用等の場所として、前回申請内容に1箇所の隔離ほ場を追加しているが、当該隔離ほ場は、従来から他の遺伝子組換えイネについての第一種使用等をしている、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構内の隔離ほ場であり、場所の追加は問題無いと判断した。

(2) 緊急措置計画書における実施体制の変更

組織再編等に伴う一部変更があったが、対応の内容を変更するものではなく、引き続き、緊急措置の実施体制が取られるものであり、緊急措置計画書における実施体制の変更は問題無いと判断した。

(3) 生物多様性影響評価書を踏まえた結論

上記内容以外、前回申請内容と特段の変更点がないことを踏まえ、本遺伝子組換えイネを第一種使用規程に従って使用等をした場合に生物多様性影響が生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断した。

3 意見を聴取した学識経験者

(敬称略 50音順)

氏名	現職	専門分野
あべ みつとも 阿部 光知	国立大学法人 東京大学大学院 理学系研究 科 准教授	植物分子遺伝学
ありえ つとむ 有江 力	国立大学法人 東京農工大学大学院 農学研 究院 教授	植物病理学
いさぎ ゆうじ 井鷲 裕司	国立大学法人 京都大学大学院 農学研究科 教授	生態学
いとう もとみ 伊藤 元己	国立大学法人 東京大学大学院 総合文化研 究科 教授	保全生態学
おおさわ りょう 大澤 良	国立大学法人 筑波大学生命環境系 教授	植物育種学
おさかべ ゆりこ 刑部 祐里子	国立大学法人 徳島大学生物資源産業学部 准教授	植物育種学
かとう ひさし 加藤 尚	国立大学法人 香川大学 農学部 教授	化学生態学、雑草 学
しのぎ かずこ 篠崎 和子	国立大学法人 東京大学大学院 農学生命科 学研究科 教授	植物生理学
しのはら けんじ 篠原 健司	国立研究開発法人 理化学研究所 環境資源 科学研究センター コーディネーター	植物生理学
つじもと ひさし 辻本 壽	国立大学法人 鳥取大学 乾燥地研究センタ ー 副センター長	植物遺伝育種学
よしだ かおる 吉田 薫	国立大学法人 東京大学大学院 農学生命科 学研究科 生圏システム学専攻 准教授	植物育種学 保全生態学